

自治協ニュース

第3004号
発行者
八本松住民
自治協議会
H30. 8. 20

着々と進む豪雨災害の復旧 八本松西6丁目に念願の「復旧橋」完成

豪雨当時、地区の方の機転で 河川転落事故を防止



7・6西日本豪雨で橋が崩壊し、周囲から孤立した八本松西6丁目の地域（8世帯）に念願の「復旧橋」が11日に完成した

豪雨災害に寄せて
皆様へ感謝します
この度の災害では、皆様方からの心強い励ましをいただき、今日まで少しずつではありますがありますが今までの生活に戻ることができ感謝とお礼を申し上げます。

この豪雨で外部と繋がる全ての橋が破壊され、頼みの線路下のトンネルにも1メートル以上の泥がたまり、それを取らなければ前にも後にも動けず困っている中、地域の方をはじめ地域外からも多くの方々のご協力でト

ンネル内の泥の除去作業をしていただきました。泥の除去作業は一輪車で坂の上まで運び廃棄する重労働で、腕と腰が痛くなるくらい大変な作業をしていただいたことは忘れられません。完全に泥が出

された時は涙と汗でびっしょりになり言葉にならないくらい感謝でいっぱいでした。また、橋のほうも暑い中で作業が進められ、おかげで1カ月余りで完成し、元の生活を取り戻すことができ、関係者の

皆様方に深く感謝申し上げます。
この度の災害は今まで経験したことのないほど恐ろしいものでした。ただ幸いこの地域では死者やけが人が出なかったことは大変良かったと思っています。また、今回の災害

で、地域の協力が何よりも大切なことや、当たり前で生活していた事は当たり前ではない事にも気づかされ、何事も感謝の気持ちをお忘れず、一日一日生活しなければいけないと思いましたが、最後にこの度ご協

力をいただいた皆様方に重ねて感謝しますとともに、私たちの地域が安心して暮らせることができる地域となることを念願し、感謝の言葉とします。
平成30年8月12日
八本松西6丁目
一住民

地域の方の話では、豪雨により破壊された橋は戦前旧陸軍がかけたコンクリート製の丈夫な橋で永年利用してきた八本松に繋がる重要な橋。

最初に橋の崩壊に気づいた住民の方は、近所の世話役の方に連絡。世話役の方は、直ちに通行止めを表示し、豪雨で暗い中この橋を通り帰宅しようとする通勤者を止め、人身事故を未然に防いだ。



橋の長さ13m、幅4m
300mmH鋼、22mm厚鋼板

7月6日午後6時頃からの土砂降りでの川の水位が一挙に上がり、午後7時前頃から橋を越えて濁流が道に氾濫。住居を浸水させるとともに橋を破壊し通行不能となった。

当局的早い対応と請負業者の努力により、ほぼ1カ月で完成した。

これで住民の方も「生活が取り戻せ、前に進むことができ」と感謝状を自

治協広報部に寄せられた。
(要約：同紙面左に掲載)

地域の中で 応急復旧 土のう作戦

八本松西5丁目 土石流氾濫防止



宗吉土石流の2カ所の開口部に土のうを設置

宗吉土石流の対応



宗吉土石流に合流しないよう置かれた土のう(林道大山線)

7月28日八本松西地域は自治協本部役員を含む約20名の関係者で7月6日に八本松西5丁目で発生した土石流(宗吉土石流)の開口部に土のう(直径1.1m高さ1.1m)を設置した。当時、曾場ヶ城山の3つの沢で発生した土石流が八本松西5丁目の山の麓で合流。その濁流が水路に入らず住宅団地内の道路表面を通り国

道2号線に流れ下った。そのため、今回の応急復旧は濁流の方向を制御するため国土交通省中国地方整備局、株式会社加藤組、常光輸送サービスの協力で土のう25個を並べる作業。この作業により、土石流の1つは別の水路に誘導し、2つの土石流は水路に流れよう誘導するのがねらい。

八本松西6丁目 河川氾濫防止



早朝から川土手に土のうを積み地域の皆さん

河川の氾濫防止に土のう積

8月12日朝5時30分 八本松西6丁目の地域(8世帯)の川土手に河川の氾濫を防止する土のうが地域の皆さんの手で積まれた。7月6日の豪雨で増水した濁流がこの地区に流れ込んだ川土

手で、長さ約30メートルの範囲に60cmの高さで約300個の土のうが積まれた。地域の方の話によると「今までも川の氾濫はあったが橋を破壊するほどの勢いで氾濫することはなかった。最近、雨量が増え上流の鉄砲水も規模が大きくなったが下流域の河川は改修されていない」と原因を話された。上流の団地を走る

水路は直線でコンクリート三面張りの鉄砲水が出やすい構造に対し、この地域の河川は昔ながらの形態。今回の豪雨でも志和方面の川とのT字型合流点で氾濫を起したり(志和町)、蛇行部分で瀬野方面の道路が破壊され、この地域を孤立させる等被害が集中している。川、道、橋の総合的な改善が望まれる。

国道2号安芸バイパス工事現場の開口部に並べられた土のう(国交省事業)



溝道土石流の対応

国道2号安芸バイパス工事現場の開口部の状況(土石流発生時) この下流域に八本松西3丁目の団地がある



また、溝道交差点方面の土石流(溝道土石流)の源流の一つで国道2号安芸バイパス工事現場を開口部とした土石流も瓦礫が除去され工事現場へ流れ込まないよう約50個の土のうが積み立てられており、この工事現場を乗り越え直接八本松西3丁目への流出を防止する策となっている。